内部結合テストケース表を作成する際、テストの目的や対象システムの特性に応じて必要な項目が決まりますが、一般的に含まれるべき主要な項目とその理由を以下に説明します。これらの項目は、テストの再現性、追跡可能性、結果の評価を確実にするために重要です。

**1. テストケースID**

* **内容**: 各テストケースを一意に識別するための番号やコード（例: TC001）。
* **理由**: テストケースを管理し、結果を追跡する際に特定しやすくするため。問題が発生した際にどのテストケースが関連しているかを明確にできる。

**2. テスト項目**

* **内容**: テスト対象となる機能やモジュール（例: データベース接続、API連携）。
* **理由**: 何をテストしているのかを明確にし、テストの範囲を定義するため。内部結合テストでは、モジュール間のインターフェースが主な焦点となる。

**3. テスト目的**

* **内容**: そのテストケースで確認したいこと（例: モジュールAからモジュールBへのデータ受け渡しが正しいか）。
* **理由**: テストの意図を明確にし、成功基準を定義するため。開発者やテスターが何を検証すべきかを理解しやすくなる。

**4. 前提条件**

* **内容**: テストを実行する前に満たすべき条件（例: モジュールAが正常に動作している、特定のデータが準備されている）。
* **理由**: テストの再現性を確保し、環境や依存関係による失敗を防ぐため。

**5. 入力データ**

* **内容**: テストに使用する具体的なデータやパラメータ（例: ユーザーID=123、パスワード=test123）。
* **理由**: テストの実行手順を具体化し、期待する動作を引き起こす条件を明示するため。内部結合では、モジュール間のデータフローを検証することが多い。

**6. 実行手順**

* **内容**: テストを実施する具体的なステップ（例: 1. モジュールAにデータを入力、2. モジュールBを呼び出す）。
* **理由**: テストを正確に再現できるようにするため。内部結合テストでは、モジュール間の呼び出し順序や連携手順が重要。

**7. 期待結果**

* **内容**: テストが成功した場合に得られるべき結果（例: モジュールBが"成功"メッセージを返す）。
* **理由**: テストの合否を判断する基準を提供するため。期待結果が明確でないと、テストの評価が曖昧になる。

**8. 実際の結果**

* **内容**: テスト実行後に得られた実際の結果（例: "成功"メッセージが返された）。
* **理由**: 期待結果と比較してテストの成否を判断するため。問題の特定やデバッグに役立つ。

**9. 合否判定**

* **内容**: テストが成功したか失敗したかの判定（例: Pass/Fail）。
* **理由**: テストの状態を一目で把握できるようにするため。全体の進捗管理や報告に必要。

**10. 備考**

* **内容**: 追加のコメントや注意点（例: 特定の条件下でのみ失敗する、エラーコードXXXが発生）。
* **理由**: テストの背景情報や異常時の詳細を記録し、後続の分析や修正に役立てるため。

**補足: なぜこれらが内部結合テストに重要か？**

内部結合テストは、単体テストを終えたモジュール同士の連携やインターフェースを検証する段階です。そのため、モジュール間のデータ受け渡しや処理の流れを正確に追跡できる項目が特に重要になります。また、バグが発生した際にどのモジュールや条件が原因かを特定できるよう、詳細な記録が必要です。これらの項目を揃えることで、テストの品質を高め、開発プロセス全体の効率を向上させることができます。

必要に応じて、プロジェクトの特性（例: セキュリティ要件が厳しい、リアルタイム処理が必要）に合わせて項目を追加することも検討してください。